

雑 報

定例研究報告会の開催

(昭和60年4月～6月)

〈回〉	〈年月日〉	〈報 告 題 名〉	〈報告者〉
1	昭60. 4. 3	昭和60年度調査研究計画	各部・委員会
2	4. 10	人口移動のコーホート分析	河邊 宏 技官
3	4. 17	昭和60年度実地調査「家族ライフコースと世帯構造変化に関する人口学的調査」について	河野 稠果 技官 内野 澄子 技官 渡邊 吉利 技官 小島 宏 技官 坂井 博通 技官 三田 房美 技官
4	4. 24	人口統計からみた長崎県	岡崎 陽一 技官
5	5. 8	分子的人口構造論にもとづく世帯変動モデル	廣嶋 清志 技官
	"	コール=マックニール結婚モデルの日本への適用	阿藤 誠 技官 伊藤 達也 技官 小島 宏 技官 池ノ上 正子 技官
6	5. 15	人口都市化と食生活—昭和54年度実地調査結果から—	内野 澄子 技官 三田 房美 技官
	"	人口モデルにおける生命表の利用	伊藤 達也 技官

なお、定例研究報告会における所内研究員の報告とは別に、次のような外部専門家（ハンガリー中央統計局のバルタ次官）による特別講義が行われている。

昭60. 4. 16	Some new features of the social processes in Hungary	Dr. Barnabas Barta
------------	--	--------------------

資 料 の 刊 行

(昭和60年4月～6月)

- Selected Demographic Indicators of Japan (April 1985)
- Organizational Chart of the Institute of Population Problems (As of 1st April 1985)
- 人口問題研究所年報 昭和59年度(昭60. 4)

昭和60年度実地調査の施行

本研究所においては、昭和60年度の実地調査として「家族ライフコースと世帯構造変化に関する人口学的調査」を実施した。その調査実施要綱を掲げると次のとおりである。

「家族ライフコースと世帯構造変化に関する人口学的調査」実施要綱

1 調査の目的

将来の人口推計とともに、世帯数の将来推計、とくに正確な世帯構成別・人員別推計は、将来急速に進行す

る人口高齢化に伴って老人を含む世帯が増加し、それへの対応が迫られている現在、厚生行政にとってきわめて重要である。

この調査は、世帯を単位として、世帯の形成、変化の歴史、つまりどのようにして新しい世帯が形成され、どのように変化したのか、また将来どのように変化して行くのかを明らかにすることを目的としている。これによって、来るべき本格的な人口高齢化とそれに伴う世帯の高齢化、三世帯同居、老人夫婦世帯あるいは老人単独世帯の問題に対応するための基礎資料を得ることができる。

2 調査の対象および客体

全国の世帯主を調査の対象とし、昭和60年厚生行政基礎調査が行われる調査区を親標本として約180調査区を無作為抽出し、その地区内のすべての世帯（約9,000世帯）の世帯主を調査の客体とする。

3 調査の期日

昭和60年6月6日

4 調査の事項

1. 世帯に関する事項
2. 世帯員に関する事項
3. 世帯主とその配偶者に関する事項
4. 世帯形成に関する意識

5 調査の方法

この調査は、厚生省人口問題研究所が厚生省大臣官房統計情報部、都道府県、政令指定都市、および保健所の協力をえて、厚生行政基礎調査と同時に実施する。

調査票の配布・回収は調査員が行い、調査票への記入は世帯主の自計方式による。

6 集計および結果の発表

集計は厚生省人口問題研究所が行い、結果は昭和61年3月ころ公表の予定である。

第37回日本人口学会大会

日本人口学会（会長：小林和正日本大学教授）の第37回大会は、昭和60年5月17日（金）、18日（土）の両日にわたり、長崎県医師会館（長崎市茂里町）において開催された。今回の大会は、長崎大学医学部の竹本泰一郎教授を委員長とする大会運営委員会の多大のご尽力によって盛大に行われ、終始熱心な雰囲気の中に充実した大会日程を終了した。会員参加者はほぼ100名、本研究所からも多数参加した。

研究報告会における報告の題名および報告者等を掲げると次のとおりである。

第1日（5月17日）

○自由論題報告

1. 人口高齢化と医療モデル……………小川 直宏（日 本 大 学）
齋藤 安彦（" "）
佐藤貴一郎（日 本 医 師 会）
2. 医療人口学試論……………倉科 周介（東京都臨床医総研）
3. 南インドにおける出生力格差……………西川由比子（筑 波 大 学）
4. フランスにおける出生力減退の効果に関する思想……………岡田 實（中 央 大 学）
5. 近世日本の人口「高齢化」
—18世紀における人口変動の一断面—……………鬼頭 宏（上 智 大 学）
6. 肥前国松瀬村竈帳の社会人口学的分析……………山本 文夫（中 村 学 園 大 学）
7. 生命表の組み合わせ利用の手法……………飯淵 康雄（琉 球 大 学）
8. 出生力表（fertility table）について……………河野 稠果（人 口 問 題 研 究 所）
9. 乳児死亡率と出生率の関係について……………大塚 友美（日 本 大 学）
10. 分子的人口構造論にもとづく世帯変動の分析モデル……………廣嶋 清志（人 口 問 題 研 究 所）